

進路だより No. 2

2026年3月 発行

愛知県立春日台特別支援学校

進路指導部

ベクトル



春の足音が聞こえてくる今日この頃です。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、校内は、今年1年の学習のまとめの時期を迎え、引き締まった雰囲気を感じられます。

今年度の進路情報誌「ベクトル」が子ども一人ひとりに応じた、また新たな目標や課題を考える上でお役に立てれば幸いです。1年間ありがとうございました。

#### ★ 幼・小学部進路講話会

10月20日(月)に幼・小学部進路講話会が行われました。講話会に先立って事前に集約したアンケートでは、高等部卒業後の進路や福祉サービスについて知りたいという要望が多く寄せられました。それを踏まえ、今年度は本校の柴田進路指導主事より「卒業後の福祉サービスと春日台の進路について」と題して講話が行われました。どのような流れで進路先を決定していくのか、また、グループホームやショートステイについても写真などの資料を交えながら詳しく説明がありました。講話会の参加者からは、「将来に向けてイメージしやすくなった。卒業後の具体的事例の紹介は生活の様子がよく分かり良かった」や「小学部のうちから福祉サービスを利用することが、将来のために大切だということがよく分かった」などの感想をいただきました。日頃から、将来の社会生活を考えながら過ごすことが大切であるということや、小学部では働く力につながる大切な力を育てる時期であるということ、改めて確認する機会となりました。

#### ★ 中学部・高等部進路講話会

9月5日(金)に、ナツの森地域活動支援センター代表理事の木上祥子様を迎え「将来に向けて必要な力～事業所との関わり方について～」を演題に講話をしていただきました。家庭での取り組みと進路の考え方として、「主体は本人！」そこに保護者、学校、進路先が連携して無理のない選択をすること、本人に合う作業所を探して、選択していくことが大切とありました。

見学をする際のポイントとして、「作業内容、支援内容はどうか」「環境が整っているのか」「お子さんに合っているのか」「家からの距離や送迎があるのか」が重要とお話がありました。身に付けたい力として、「やってみよう！（意欲）」「相手を意識！（コミュニケーション力）」「働きたい！（気持ち）」「ルールを守る！」そして基本行動を大切にすることがあげられました。参加された保護者からは、「地域活動支援センターのことよくわかりました」「保護者目線の話や、卒業後の過ごし方なども聞くことができ良かった」「グループホーム探しも、早めに考えないといけないことがわかりました」などの感想をいただきました。



## ★ 高等部進路講話会

11月6日(木)に、ハローワーク名古屋中学卒部門就職支援ナビゲーター渡邊利栄様を迎え、企業や就労継続支援A型事業所、就労移行支援事業所への就労を希望する高等部2年生の生徒を対象に「働くとは？働くことの意義と就職に向けた学校生活の過ごし方」をテーマに講話をしていただきました。そもそもハローワークとは何をする場所なのかという投げかけから始まり、働くために必要な力の五つの条件をお話していただきました。また、離職率についても、具体的な離職率や離職に至った経緯なども教えていただきました。「働き続けることがゴール」だとお話していただき、働き続けるためには、自分のことや仕事内容をしっかり知ることが大切だということで、チェックシートを活用し、好きなことや得意なこと、現在の自分の力や課題などを確認することができました。終盤には、生徒から挙げられた質問に丁寧にお答えいただき、とても有意義な時間となりました。

## ★ 中学部校内実習

1年生では、不要油の吸収剤「油すいと〜る」づくりを行い、裁断した新聞紙をお茶パックに詰める班、新聞紙を牛乳パックに詰める班に分かれて作業に取り組みました。また、外注班では、園芸ケースへポリポットを入れる作業に取り組みました。

重複学級では、1〜3年合同で、園芸ケースへのポリポット入れ、メモ帳、メモスタンドづくりの作業を行いました。初めての校内実習で緊張している様子でしたが、最後まで諦めずに取り組むことができました。少しずつ慣れてくると目標を達成しようと努力したり、正確に行うために丁寧に確認したりと、それぞれの目標に向かって努力する姿が印象的でした。



2年生では、外注班と紙工班の二つの班に分かれて校内実習を行いました。外注班では就労継続支援 B 型事業所から受注した、自動車部品のバリ取りの作業に取り組み、紙工班では牛乳パックの裁断やラミネートはがし、紙ちぎり、紙すきなどの作業工程に分かれて取り組みました。1コマの作業時間が60分と、昨年度よりも長い作業時間で実習を行いました。どの生徒も集中して取り組める時間が長くなり、それぞれの目標に向かって努力しながら活動する姿が見られました。また、今回の実習を通して、達成感を得たり、働くことの大変さを感じたりすることもできました。



### ★ 高等部後期校内実習

10月6日(月)から10月17日(金)までの2週間、校内実習を行いました。外部企業から請け負った化粧箱を折る班、野外炊さん用のまき束を作る班、スキー靴の部品を組み立てる班、ネジの組み立て、分解や園芸用ポットを育苗用トレーに並べる班の計4班に分かれて作業をしました。外部企業から請け負った製品を取り扱う班では、自分たちの作る製品が販売されていくことになるため、責任感をもって取り組む生徒が多くいました。普段の作業学習では、体験できない製品を取り扱うため、緊張することがあったかと思いますが、働くということの大変さや大切さを実習を通して学習することができたよい校内実習になりました。



### ★ 高等部2年生 産業現場等における実習

1月26日(月)から、高等部2年生の産業現場等における実習が企業(就労継続支援A型事業所を含む)、障害福祉サービス事業所で実施されました。

初めての校外での実習に緊張したり、思いがけないトラブルがあったりもしましたが、最後まで一生懸命働く姿が見られました。短い期間でしたが、働くことの大変さを強く感じ、卒業後の自分の姿を少し想像することができた期間ではないかと思います。この経験をもとに、より一層「挨拶」や「人との関わり方」について学習を深めていってほしいです。

### ★ 高等部追指導の様子

高等部では、卒業後2年間をめどに、旧担任が中心となり就労先への追指導を実施しています。夏季休業中に、卒業生の様子を就労先に確認し、必要に応じて直接訪問します。本人や就労先の担当者に話を聞き、助言や激励を行うなど、一人ひとりに応じた支援をしています。追指導をする中で、充実した生活を送る様子が聞けたり、新たな職場で頑張ったり、資格を取得したりしている様子を聞き、嬉しく感じるがありました。

卒業後1年目は、体力的なことや仕事内容など、就労前に抱いていた印象とのギャップに戸惑うことも多く、まだまだ自信をもつことができない様子が見られます。2年目ともなると、仕事の段取りを覚え、落ち着いて取り組み、活躍している卒業生が多くいます。2年目以上になると、そのまま頑張っている人もいれば、違う仕事をしたいと相談に来る人もいます。特に多いのが、職場での人間関係がうまくいかずに悩み、転職を考えるケースです。担当者が代わったり、パートの人が入れ替わったりするなどのタイミングで、うまくいかなることが多いようです。離職を防ぎ、長く仕事を続けていくためには、会社側に理解を求めるとともに、本人たちの対応力も必要だと強く感じます。

★ 令和7年度 卒業生の進路先について



高等部 33名	企業8名	製造業4名、介護補助1名、調理補助1名、清掃業2名
	就労継続支援 A型事業所4名	〈春日井市〉かなえ、春日井ハート 〈小牧市〉DRIF 〈名古屋市〉わっばん
	就労移行支援 事業所1名	〈春日井市〉ふらっぶ
	就労継続支援 B型事業所12名	〈春日井市〉すまいる(2名)、すまいるネオ、サンライク高蔵寺、わかば かきつばた、ジョブズプレイス、まっくびーワークス春日井 〈小牧市〉小牧ワイナリー、まっくびーワークス小牧、リアサポート 〈名古屋市〉モーヤコ
	生活介護 事業所7名	〈春日井市〉みずほ、けやきの家、 〈小牧市〉パプリカ・さらん併用、いわぎき授産所、サンビレッジ 本庄授産所 〈多治見市〉あしおと
	進学1名	〈名古屋市〉名古屋高等技術専門学校

★ 新しい制度の紹介～これまでの制度が変わります～



○これまでの就労アセスメント制度には次のような課題がありました

- ・就労系障害福祉サービスの利用を希望する障害者の就労能力や適性を客観的に評価し、それを本人の就労に関する選択や具体的な支援内容に活用する手法等が確立されていないため、障害者の就労能力や一般就労の可能性について、障害者本人や障害者を支援する者が十分に把握できておらず、適切なサービス等につなげられていない。
- ・一旦、就労継続支援A型・B型事業所の利用が始まると、固定されてしまいやすい。
- ・本人の立場に立ち、次のステップを促す支援者がいるかどうかで、職業生活、人生が大きく左右される。

**就労選択支援制度**



○概要

障害者本人が就労先・働き方によりよい選択ができるよう、就労アセスメントの手法を活用して、本人の希望、就労能力や適性等に合った選択を支援する新たなサービス

○対象者

令和7年10月から…就労継続支援 B 型事業所利用希望者

令和9年 4月から…就労継続支援 A 型事業所利用希望者

○特別支援学校の場合

卒業後の進路選択を考える上で、より効果的な就労選択に資するアセスメントを実施するために、特別支援学校高等部の各学年で実施できる。複数回実施することも可能。登校日での実施は、教育活動に支障をきたすことがあるため、長期休業中の実施が望ましい。